

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 竹末 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問調査

児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

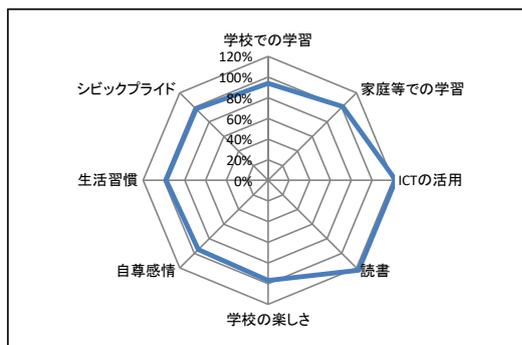
(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均を下回っている。「読むこと」の正答率は低いが、「書くこと」の正答率は高い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	図表などを用いて、書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	目的に応じて必要な情報を見つける問題	

算数	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均を下回っている。「測定」領域の正答率は低いが、「データの活用」領域の正答率は高い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる問題	

理科	全体的な傾向や特徴など	全国平均とほぼ同程度である。「物質・エネルギー」領域の正答率は低いが、「生命・地球」領域の正答率は高い。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	身の回りの金属は、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析	
○	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができる。また、周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組むことができている。しかし、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるように発表できない児童がいる。
○	ICTの活用状況は、全国と比べてもかなり使う率が高い。ICT活用スキルも年々レベルアップしている。
○	自尊感情に関する質問では、全国平均と比べるとやや低い。自分自身に自信がもてない児童がいる。
○	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思っている児童が多い。
○	読書が好きな児童、よく本を読む児童は、全国平均と比べて多い。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 教科の学習や学級会などで、自分の考えをうまく伝えることができるように、発言の仕方を指導していく。
- 読解力を高めたり、正しく測定したりできるように、ICTを効果的に活用するなど、授業改善を行っていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 「家庭学習」では、近隣の中学校の定期考査に合わせ、「家庭学習強化週間」を1年に複数回位置付け、家庭学習の大切さを児童や保護者に啓発していくことを続ける。
- 「早寝、早起き、朝ごはん」などを意識して生活できるよう、家庭に啓発していく。